

中学部 2 年 学年体育 学習指導案

大阪府立和泉支援学校

T 1 高橋 多恵子

T 2 大久保 裕章

他 7 名

1. 日時 令和 6 年 9 月 1 9 日 (水) 第 5 時限 (13:20~14:10)
2. 場所 体育館
3. 学部・学年・グループ 中学部 第 2 学年 38 名
4. 単元 (題材) 名 球技「ポートボール」
5. 単元 (題材) 目標

- (1) ポートボールの楽しさに触れ、基本的な動き (パス・キャッチ・ドリブル・シュート) ができる。
(知・技)
- (2) 自分やチームの課題を見つけ、それを解決するための活動を考えようとしている。ルールを理解し、作戦を考えて他者に伝える力を養う。(思・判・表)
- (3) ルールを守り、友だちと協力してゲームをしようとしている。また、場や用具の安全に留意し、運動をすることで自己の健康・安全の大切さに気づき、最後まで楽しく運動する態度を養う。(学・人)

<和泉支援学校キャリアプランニングマトリックス>

- | | | | | | |
|---------------------|-----------|-------|-------|-------|-------|
| (1) 社会へ [情報活用・将来設計] | 習慣形成 | 1 段階④ | 2 段階④ | | |
| (2) 自分で [意思決定] | 目標設定 | 2 段階① | | | |
| | 自己選択 | 1 段階① | | | |
| | 振り返り・自己調整 | 1 段階② | 2 段階② | 3 段階① | |
| (3) 人と [人間関係] | 自他の理解 | 1 段階② | 2 段階② | 4 段階① | |
| | 集団参加 | 1 段階② | 2 段階② | 3 段階② | 4 段階① |
| 社会へ [情報活用・将来設計] | 習慣形成 | 3 段階④ | 4 段階④ | | |

6. 生徒観

中学部第 2 学年は、教科学習 (国語・数学・理科・社会・外国語の授業を中学部では「グループ学習」という授業名で行っている。) のグループを認知度別に 6 つに分けている。A~F グループあり、以下グループ別に大まかな認知度を表記する。

- A グループ…発語がある生徒と発語がない生徒がいる。内言語は豊富だが、理解できていない言葉も多い。指示された活動をせず、その時の気分で行動することがある。
- B グループ…簡単な言葉で自分の意思を伝えることができる。指示された内容を理解することに課題がある生徒もいるが、個別対応をするとある程度理解ができる。文字の読み書きに課題があ

る生徒が多い。動きの模倣ができる生徒とできない生徒がいる。

C グループ…数字の数唱やある程度のひらがなを読み書きができる。(促音・拗音・撥音・濁音・半濁音などの識別などが難しい)相手の話す内容をある程度理解するが記憶することが難しい生徒がいる。動きの模倣ができる生徒が多い。

D グループ…数字の数唱ができる。ひらがなやカタカナ、簡単な漢字の読み書きができる。相手が話す内容を理解して行動することができる。

E グループ…簡単な計算ができる。小学校低学年程度の言葉の読み書きができる。相手の話す内容を理解して、質問に答えたり、行動したりすることができる。

F グループ…学年の中で認知度が高いグループ。教科によっては小学校中～高学年程度の学習能力がある。相手が話す内容を理解して、具体的に答えたり、考えてから行動したりすることができる。

認知度が高い生徒は、ボディイメージを持ちやすいためか、多くは運動能力も高いが、本学年は認知度の高い生徒が少なく、中程度(グループ B・C・D・E)が大半である。中程度の生徒たちは、なんとなく言われていることは理解できたり模倣できたりするが、勝敗にこだわったり自分の能力を理解してゲームを組み立てたりすることは難しい。中程度の数名の生徒は、経験値が少ないため積極性に欠けるが運動能力が長けている。認知度は高いが、勝つことにこだわりすぎて自己中心的な行動をする生徒も数名いる。今回はある程度ルールを理解できる+運動能力が高いグループ(ガンガングループ<G>)とルールの理解が難しい+運動能力が低いグループ(ボチボチグループ)に分けて活動する。

7. 教材観

本単元は、特別支援学校中学部学習指導要領 保健体育 Ⅰ段階 E球技 ア 球技の楽しさや喜びを知る・基本的な動きと技能の習得 イ 球技についての課題の克服方法と方法の伝達 ウ ルールの理解と友だちとの協力によるゲームの遂行に関わるものである。昨年度の学年体育ではボール運動として「的当て」を行い、目標物に向かってボールを投げる課題をした。ボールを前へ投げることができても、目標物に向かって投げるのが難しい生徒が多かった。練習をすることで、的(停止しているもの)への距離や投げる時の力加減・方向などの感覚が養われた。昨年度に培った目標物に投げる感覚を発展させ、一人ひとりが基本的な動き(パス・キャッチ・ドリブル・シュート)ができるようになることで、友だちと協力してゲームを成立させ、球技の楽しさや喜びを知る機会になればと考えた。

「ポートボール」を選んだ理由として、球技の中でも基本的な動きを(パス・キャッチ・ドリブル・シュート)活用しつつ、ルールや活動が他の球技より比較的わかりやすく、本学年の生徒が取り組みやすいと考えたためである。生徒の特性に合わせて簡易なルールや特別ルールを設け、ボール運動に取り組みやすいようにする。

8. 指導観

単元の指導にあたっては、10時間の単元構成で行ない、3つの単元目標の達成を目指す。単元前半では、生徒の実態を把握した上でポートボールに必要な基本的な動き(パス・キャッチ・ドリブル・シュート)を身につける。単元後半は、ガンガングループとボチボチグループに分けてガンガングループは、自己やグループの課題となる動きの上達を目指し、生徒が主体的に活動することでゲームのおもしろさが体験できる学習につなげていきたい。ボチボチグループは、個々の課題となる動きの上達を中心に活動し、上達していることがわかるようなシステムを用意して達成感を味わうことで、ボール

運動の楽しさや喜びにつなげていきたい。さらに、個々の技術が上がると、友だちと協力してよりゲームを楽しめることを知る学習につなげていきたい。

本時の授業は3時間目で、基本的な動き（パス・キャッチ・ドリブル・シュート）の中で生徒が自己の課題を見つけ、課題解決のための工夫を考えたり友だちや教員のアドバイスを聞いたりして、動きを見ながら上達していることがわかることで、生徒の主体的な活動へつなげることを意識している。

9. 単元（題材）の評価規準

A 知識・技能	B 思考・判断・表現	C 主体的に学習に取り組む態度
①ポートボールの行ない方を理解している。 ②基本的なボール操作（パス・シュート・キャッチ。ドリブル）を身につけている。 ③ボールを持たない時の動き（空いている場所に素早く動く）を身につけている。	①攻めと守りのイメージを持つことができる。 ②友だちと作戦を考えようとしている。 ③体の動かし方やボールの扱い方を意識して、動きを工夫することができる。 ④自分やチームの課題を見つけ、課題を克服しようとしている。	①場や用具の安全に留意して、準備や片付けをしている。 ②ルールを守り、勝敗を素直に認めようとしている。 ③友だちと協力して、楽しく運動をしている。 ④準備運動や整理体操をすることでケガの防止になることを知る。

10. 単元（題材）の指導と評価の計画（全10時間、本時は第3時）

次	時	学習内容	学習活動	指導上の留意点	評価規準 (評価方法)
	1	・オリエンテーション ・タオル体操の説明	① ポートボールの説明 ② 学習の見通しを持つ ③ グループिंग ④ 教員が見本のゲームをして、それを見る。 ⑤ 学習ノートの説明	・ポートボールの難しさと楽しさをわかりやすく伝える。 ・学習ノートを使って、上達していく様子がわかるようにする。	A① B① C①②④ (観察)

1	2 ~ 6 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> ・ グループ（ガン・ガングループ・ボチボチグループ） ・ 各グループで4つのチームに分ける。 ・ チーム別で基本的な動き（パス・シュート・キャッチ・ドリブル）の練習 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ペアでパス練習 ・ 3人でパス練習 ・ 4人でパス練習 ・ 移動しながらパス ・ その場でドリブル練習 ・ 移動しながらドリブル練習 ・ ガードマンをつけてシュート練習 	<ul style="list-style-type: none"> ・ いろいろなパスの仕方を覚えることで、味方にうまくパスができ、シュートに繋がることを伝える。 ・ シュートでフワッとボールを上を上げるとガードマンが防御しにくいことを伝え、力任せにシュートをしないように伝える。 	<p>A②③ B①④ C①③④ (観察) (学習ノート)</p>
2	7 ~ 10	<ul style="list-style-type: none"> ・ ルールの説明 ・ 作戦会議 ・ ミニゲーム 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ゲームの時間、反則行為、得点方法、メンバーの交代などを知る。 ・ 各グループ（ガン・ガン・ボチボチ）の中で4つのチームに分かれる ・ 各チームは名前を決め、ゴールマンやガードマンを決める。 ・ ゲームをすることで、自分やチームの課題を見つける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ルールを守ることで、楽しくゲームができることを伝える。 ・ パスをする時は、声を掛け合って行なうと、ゲームがうまく展開できることを伝える。 ・ 得意な基本的な動き（パス・シュート・キャッチ・ドリブル）によって、役割（オフェンス・ガードマン・ゴールマン）を決める方法があることを伝える。 ・ 作戦や役割を変更しても良いことを伝える。 	<p>A①②③ B①②③④ C①②③④ (観察) (学習ノート)</p>

II. 本時の展開

(1) 本時の目標

- ・定位置でパス（チェスト・バウンズ・ショルダー・サイドハンド）＆キャッチができる。
- ・移動してパスができる。
- ・その場でドリブルができる。
- ・移動しながらドリブルができる。

(2) 本時の評価規準

- ・いろいろなパスができるようになる。(A②・C③)
- ・うまくパス・キャッチ・ドリブルができなかった時は、教員のアドバイスを聞いて動いてみるなど工夫する。(B③④)

(3) 本時で扱う教材・教具

ボール、カラーコーン、トラバー、ビブス、タブレット型PC、Lightning ケーブル、スピーカー
養生テープ

(4) 児童生徒の実態と本時の目標

(G→ガンガングループ、B→ボチボチグループ) (a~f→A~F グループ学習) (1~4→チーム)

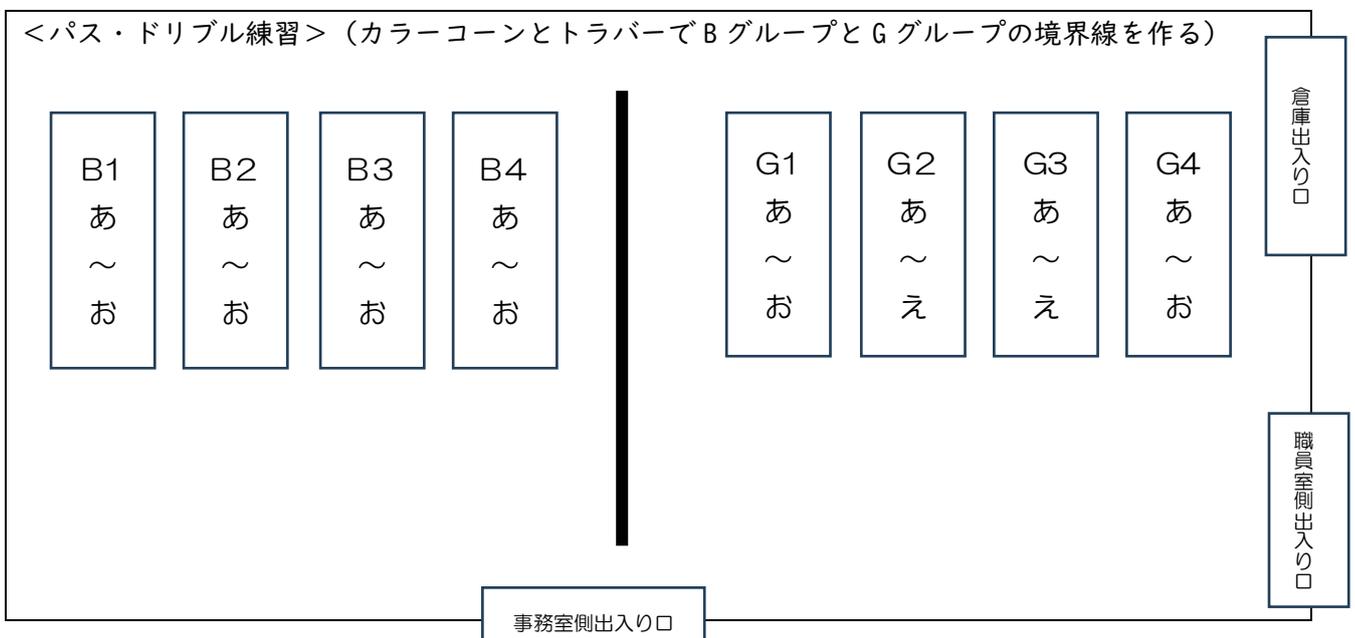
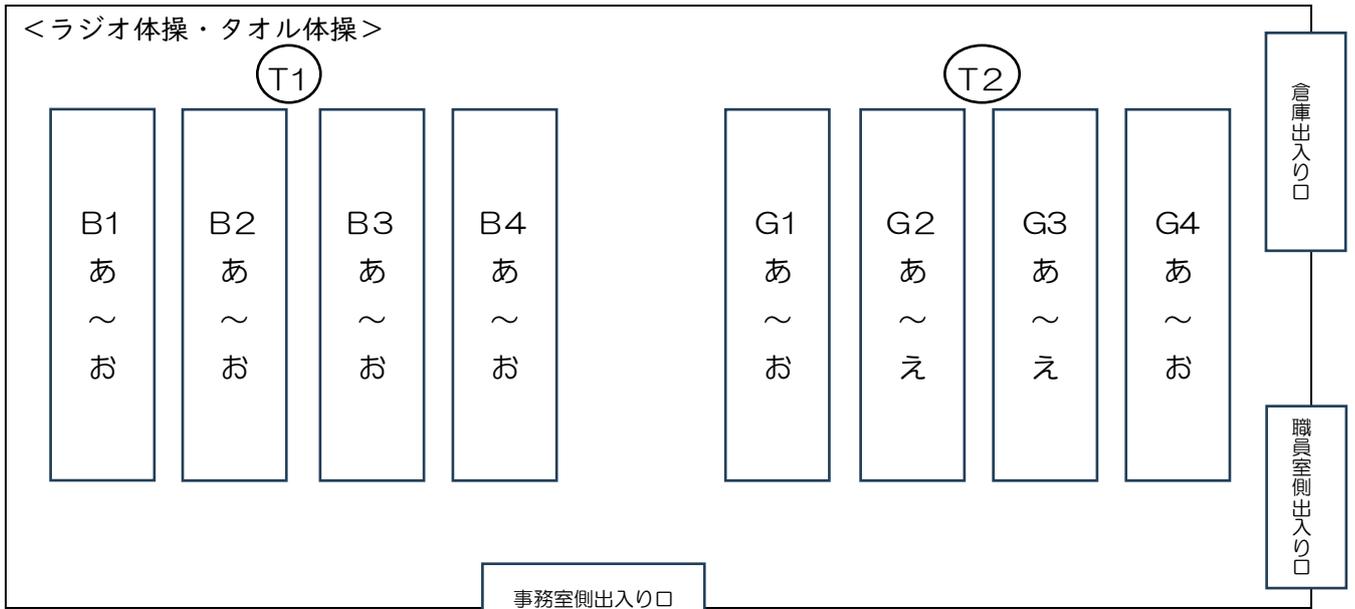
※省略※

(5) 本時の学習過程

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点及び支援の手だて等	評価規準（評価方法）
10分 導 入	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶 ・本時の内容 ・ラジオ体操 ・タオル体操 ・休憩 	<ul style="list-style-type: none"> ・選ばれた生徒は前に出て、大きな声で挨拶をするように促す。 ・タオル体操では、見本を見て動くように促す。 	
30分 展 開	<p>グループに分かれて活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パス練習（チェスト・バウンズ・ショルダー・サイドハンド） ・移動しながらパス練習 ・ドリブル練習 ・ドリブル+パス練習 	<ul style="list-style-type: none"> ・相手をよく見て、距離や力加減など考えてパスをするように促す。 ・ドリブルでは、できるだけボールばかり見ずに周りを見ながら行えるように促す。 ・動きながらドリブルやパスをする際には、相手やボールの距離を予測しながら行なうことを伝える。 	<p>A② B③④ C③ (観察)</p>
10分 ま と め ①	<ul style="list-style-type: none"> ・本日の練習を振り返って、できたところにシールをつける。(学習ノート) ・整理体操 	<ul style="list-style-type: none"> ・チームごとに円になり、担当チームの教員がそれぞれのできていたところを伝え、シールを貼る(渡す)。 ・よく使ったところをストレッチする。 	(学習ノート)

ま と め ②	<ul style="list-style-type: none"> ・ 片付け ・ 挨拶 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 道具を元の場所に片付けるように伝える。 ・ 道具を丁寧に使うように伝える。 ・ 選ばれた生徒は大きな声で挨拶するように促す。 	
------------------	---	--	--

(6) 教室配置等 (正面を上にして、児童生徒や教員の位置、教材・教具の配置等を示す)



← ネット